

「will-being」～意志あるところに希望が生まれる～

新年あけましておめでとうございます。市民のみなさまにおかれましては、希望に満ちた新春を新たな気持ちで迎えられたことと思います。

昨年は市民のみなさまから大きな期待を受けていることを身にしみて感じながら、市長として3期目の任期をスタートしました。

山陽小野田市としては、新市誕生20周年の節目の年であり、「ドリームサッカー」や「NHKのど自慢」等、様々な記念事業を開催して多くのみなさまの笑顔に触れることができました。20年という年月の中では、自然災害や新型コロナウイルス感染症の流行等、行政の力だけでは対応できない大きな壁もございましたが、みなさまのご協力の下これらを乗り越え、一つのまちとして成長を遂げてきたと感じております。

また、昨年11月には、友好都市であるオーストラリアのモートンベイ市を訪問し、レッドクリフステートハイスクールや本市のガラス文化を紹介する美術館訪問、モートンベイ市議会でのスピーチやピーター・フラナリー市長との意見交換等、33年間の両市の絆、つながりを一層深める機会となりました。今後も友好関係を深め、両市が発展するよう新たな交流を進めていきたいと思っています。

さて、今年4月から、本市の第二次総合計画において最終期間となる後期基本計画がスタートいたします。後期基本計画では「活力あふれるまち」、「笑顔あふれるまち」、「魅力あふれるまち」の三本柱を重点プロジェクトとして掲げて取り組んでまいります。中期基本計画に引き続き「協創によるまちづくり」の考え方の下、施策を進めていくことに変わりはありませんが、更にまちの価値を高めるには、「官民連携の推進」と「関係人口の創出」が重要であると考えています。全国的な人口減少という現実を正面から受け止めた上で、人口が減っても活力を生み出せるまちをつくる必要があります。「協創」の

理念の下で、民間と行政が手を取り合う施策を推進するほか、定住人口や交流人口といった概念を超えて、市内外の方が継続的に本市のまちづくりに関わる仕組みを整えることで、持続可能なまちづくりにつなげていきたいと思っています。

今年の私のキーワードは「希望・will-being」です。これは、良いこと(well)を待つのではなく、自分の意志(will)を持ち状況を良くしていくという考え方であり、現状を未来に向けて変化させようとする能動的、自律的な「意志」のことを「well-being」に比して「will-being」と表しています。これからは「山陽小野田市を未来に向けて持続可能なまちに育てる」ことが必要です。「持続可能なまち」とは市民のみなさまがまちの未来に「希望」を持ち、日々の暮らしに「希望」を持つことができる「まち」と考えます。意志(will)があるところに希望が生まれ、その先にある「活力と笑顔があふれるまち」につながると思っております。

本年も、「協創」のパートナーであるみなさまと一緒に課題を共有し、解決に向けて共に行動をしながら「スマイルシティ山陽小野田」を創っていきたく思いますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

2026年、令和8年が市民のみなさまにとりまして、未来に向けて「希望」に満ちた輝かしい1年となりますことをお祈りいたします。

山陽小野田市長 藤田 剛二

